

すこやかちゃん



さくらんぼ はなみ
桜穂ちゃん・桜美ちゃん
(平成20年7月4日生・平成14年4月5日生)
両親＝渡辺 努・美穂さん〔埴〕
「待ちに待った妹が生まれたよ！
お姉ちゃんやってま〜す」



ゆうが
悠我ちゃん(平成20年3月13日生)
両親＝神原篤史・香さん〔飯岡〕
「初めての寝返り上手でしょ〜」
空飛んでみたいなあノ」



あいり
亜衣里ちゃん(平成18年12月7日生)
両親＝崎山健太・和美さん〔江ヶ崎〕
「おでかけ大好き！
早くお友達といっぱい遊びたいな」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



7 道友との絆

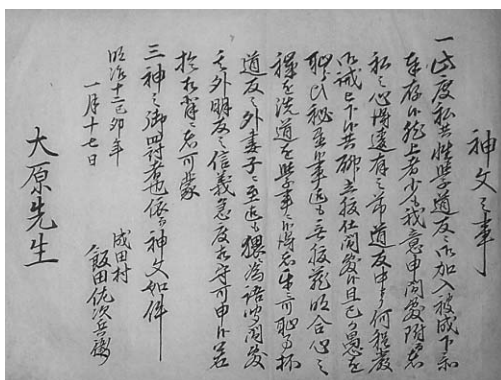
農村を救った絆のサムライ 大原幽学

幽学の門人は道友と呼ばれました。

もちろん農民たちは幽学のことを先生、師と表現していました。しかし、自分も同じく人の生きる道を学ぶものであり、上下関係はないものとして、幽学はこのような呼称を用いたといわれています。

さて、一体どれくらいの門人がいたと思いますか。その答えは、記念館に残されている入門誓約書「神文」が教えてくれます。仲間同士助け合、教えを学んでいくことを神に誓う文言とともに、最後に村名、氏名そして爪印が押されています。農民たちは、印章の代わりに爪先に墨を付けて捺印したのです。

現存するのは一、九一六通。ただし、この誓約書を提出するのは成人男性のみ。世帯主が入門すると、その家族全員が幽学の教えを受けるようになっていたことを考えれば、その実数はさらに何千人にも及びます。



▶没後八十二年、明治十二年に成田村の門人によって出された神文

このうち、実は幽学時代は六一七通。残り一、二九九通は、没後の道友たちの入門によるものです。引き継がれた教えは、死後もその輝きを失うことなく、その証拠にこの大量に残された神文は、明治時代に至るまでずっと変わらずに「大原先生」あてに差し出されたのです。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 4日(木) 人権週間(～10日(水))
- 7日(日) 第4回あさひ寄席(13:30～東総文化会館)
- 8日(月) スターライトファンタジー(～25日(木))
- 10日(水) 冬の交通安全運動(～31日(水))
- 14日(日) 旭市民駅伝大会(8:20～東総運動場)
- 23日(火) 天皇誕生日
- 26日(金) 市役所仕事納め

古紙配合100%再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

市内局番「60番台→50番台」「50番台→60番台」へかけるときは「0479」が必要です。

編集後記

今月号で掲載のとおり、各戸に市勢要覧を配布しました。要覧といってもピンとこない方もいるかもしれません。簡単にいうと、市をPRするための冊子です。「市が作るものは堅苦しくて！」と思ってるあなた、表紙だけでも見てください。「おっ！」と思ってもらえたら、しめたもの。きつと、中も見なくなるでしょう。ページのめくる度、新しい旭の発見がある。そんな要覧になったらいいと願っています。読んだら本棚の隅にでも置いてください。間違ってもこの年末、大掃除に紛れて…。それだけはお許しを。(ま)